

**CAV**  
JAPAN

# 取扱説明書

## オーディオラック

型番

# THR-130HD



**HDMI**<sup>®</sup>  
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

**dts**  
TruSurround

- ご使用前に、「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は、保証書とともに、いつでも見ることができるところに必ず保存してください。
- 地震・火災など緊急時や異常時には、直ちに電源プラグを抜き、ご使用を中止してください。
- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

### 一般家庭用

業務用として使用しないでください。  
他の用途での使用はしないでください。  
思わぬ事故の原因になります。

**日本国内専用**  
Use only in JAPAN

# もくじ

用語の説明	3
商標などについて	3
付属品	4
安全上のご注意	5
使用上のご注意	10
お手入れのしかた	10
搬送や移動のしかた	11
組立	12-18
各部のなまえとはたらき	19-22
本機やテレビなどを設置する	23-24
テレビを接続する	25-26
電源を接続する/電源を入れる	27-28
リモコンに乾電池を入れる	28
テレビの音声を聞く	29
音量などを調整する	30
いろいろな音質を楽しむ	31
dtsサラウンドで音質を楽しむ	31
リセット操作について	31
オフタイマーを設定する	32
表示タイマーを設定する	33
HDMI連動機能について	34-35
「故障かな？」と思ったら	36-37
よくあるお問い合わせ	38
おもな仕様	39
保証とアフターサービス	40

# 用語の説明

## ARC (オーディオリターンチャンネル)

HDMI ver.1.4 で新しく追加された機能の一つです。ARC 対応のテレビのHDMI 入力端子と本機のHDMI(ARC)端子とをハイスピードHDMI® ケーブルでつなぐことにより、テレビからの音声信号を受けることができるため、従来のように光デジタル音声ケーブルをつなぐ必要がありません。

## HDMI (High Definition Multimedia Interface)

ハイビジョン映像信号、マルチチャンネルオーディオ信号、双方向伝送対応のコントロール信号を1本のケーブルで接続できるデジタルAV インターフェースです。デジタル信号を圧縮せずに転送するので、高品位な画質・音質をシンプルな接続で楽しむことができます。

## PCM (Pulse Code Modulation)

アナログの音声信号をデジタル信号に変換する方式の一つです。アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化します。この方式で変換した信号をPCM信号といいます。

## DTS TruSurround™

DTS TruSurround 技術は、豊かな低音、クリアな中高音までを実現。臨場感あふれるサラウンド効果をお楽しみいただけます。

## HDMI連動機能

HDMI 連動機能とは、主にHDMI CEC (Consumer Electronics Control) を使用し、テレビやBD/DVDレコーダー、オーディオアンプを制御する機能です。テレビの操作に連動し、本機の電源「入/切」や音量調整などを行うことができます。

# 商標などについて

HDMIと High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、米国およびその他国々において、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。



DTS特許については、<http://patents.dts.com>をご参照ください。

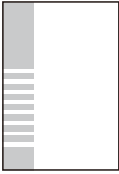
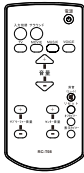
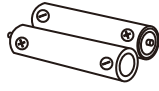


DTS Licensing Limited に基づき製造されています。

DTS、シンボルマーク、およびDTSとシンボルマークの組み合わせは登録商標です。また、DTS Tru SurroundはDTS社の商標です。

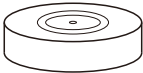
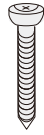



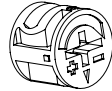





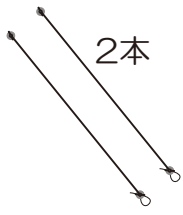
© DTS, Inc. All Rights Reserved.

# 付属品

付属品をご確認ください。

<p>取扱説明書×1冊</p> 	<p>リモコン×1</p> 	<p>単4形乾電池×2本 (リモコンお試し用)</p> 
<p>保証書×1</p> 	<p>HDMI ケーブル×1 (約1.5m)</p> 	



## 組立部品

<p>脚</p> <p>6個</p> 	<p>脚固定ねじ (大)</p> <p>6個</p> 	<p>脚滑り止め シール</p> <p>6個</p> 	<p>スクリュー スチールピン</p> <p>16個</p> 	<p>ボス</p> <p>16個</p> 	<p>ピンキャッチ</p> <p>16個</p> 
<p>背板ねじ (小)</p> <p>12個</p> 	<p>ピンキャッチ カバー</p> <p>16個</p> 	<p>スチールピン</p> <p>4個</p> 	<p>蝶ネジ+ワッシャー</p> <p>4個</p> 	<p>ワイヤー</p> <p>8個</p> 	<p>2本</p> 

# 安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

	<b>警告</b>	人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。
	<b>注意</b>	人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

☒記号の意味  
(☒記号の一例です)



記号は、気をつける必要があることを表しています。



記号は、してはいけないことを表しています。



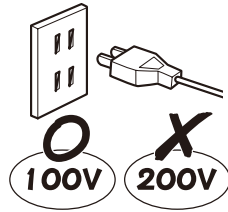
記号は、しなければならないことを表しています。

## 警告

交流100ボルト以外の電圧で使用しない



100ボルト  
以外禁止

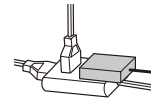


・火災・感電の原因となります。

タコ足配線をしない



禁止



・火災・感電の原因となります。

国外では使用できません



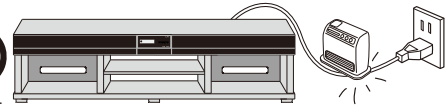
禁止

・この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では電源電圧が異なりますので使用できません。  
(This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したり、加工したり、重い物を載せたり、この製品の下敷きにしない



禁止

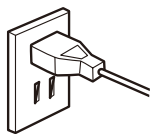


・電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷ついたときは、販売店に交換をご依頼ください。

電源プラグは確実に差し込む



確実に  
差し込む



・電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ホコリが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

雷が鳴りだしたら、製品に触れない



接触禁止

・感電の原因となります。

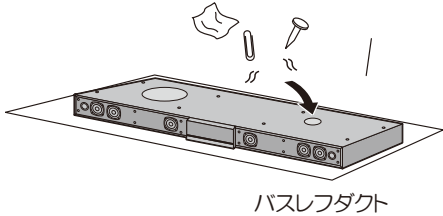
# 安全上のご注意(つづき)

## 警告

開口部（バスレフダクトなど）から金属類や燃えやすい物などを入れない



禁止



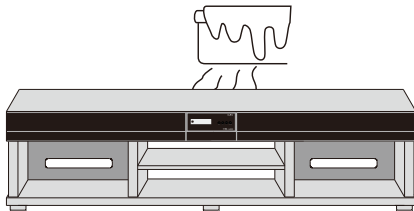
バスレフダクト

- ・ 火災・感電・けがの原因となります。
- ・ 小さなお子様が誤って物を入れないようにご注意ください。

風呂やシャワー室では使用しない



風呂、シャワー室での使用禁止

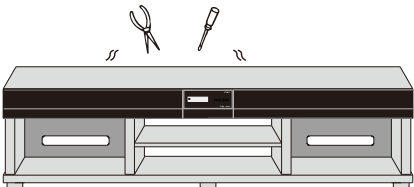


- ・ 火災・感電の原因となります。

キャビネットを開けたり、改造しない



分解禁止

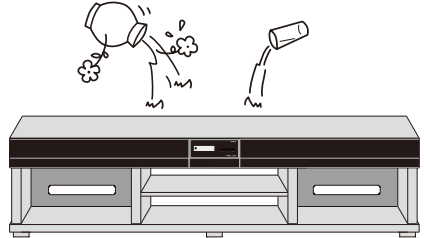


- ・ 火災・感電・けがの原因となります。
- ・ 内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

本機の上に花瓶など、水の入った容器を置かない



水ぬれ禁止



- ・ 水がこぼれるなどして中に入ると、火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入ったときは、電源を切り、電源プラグを抜く



電源プラグを抜く

- ・ そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店にご連絡ください。

製品の組み立ては、取扱説明書通りに行う



- ・ 部品が外れて、けがの原因になります。

煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く



電源プラグを抜く

- ・ 異常な状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。修理を販売店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

## 注意

不安定な場所に置かない



禁止

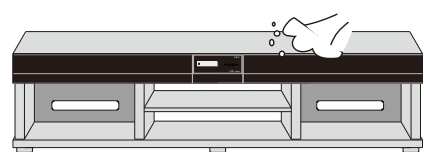


- ・ 落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

冷気が直接吹きつける所や、極端に寒い場所に置かない



禁止



- ・ 露がつき、漏電・焼損の原因となることがあります。

# 安全上のご注意(つづき)

## ⚠ 注意

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気が当たるようなところに置かない



禁止

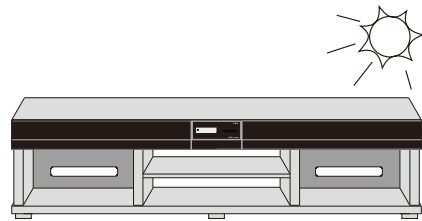


- 調理器具や加湿器などのそばに置くと、火災・事故の原因となることがあります。

直射日光が長時間あたる場所や、暖房器具の近く、火気の近くには置かない



禁止

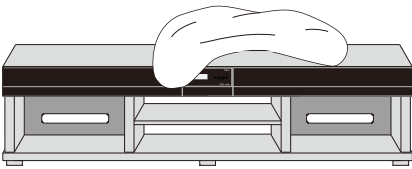


- 火災・事故の原因となることがあります。

風通しの悪いところで使用しない  
また、じゅうたんや布団などをかけない



禁止



- 放熱孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

大音量で再生中に万一異音が出た場合は、音量レベルを下げてください



音量を下げる

- そのまま使用すると、スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
- 電源を切る前には、アンプの音量を必ず最小にしてください。電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

製品の上に乗らない



禁止

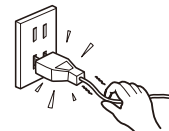


- 踏み台や腰かけのかわりに使わないでください。倒れたりこわれたりして、けがの原因となることがあります。
- 特にお子様やペットにはご注意ください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない



禁止

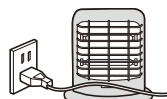


- 電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない



禁止



- 電源コードの被覆がとけて、火災・感電の原因となることがあります。

お手入れのときや長期間使用しないときは、電源プラグを抜く



電源プラグを抜く

- 感電やけがの原因となることがあります。

本機は非常に重いので、持ち運びは必ず2人以上で行ってください



指示

- 腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



ぬれ手禁止



- 感電の原因となることがあります。



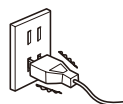
# 安全上のご注意(つづき)

## ⚠ 注意

電源プラグはゆるみのあるコンセントに接続しない



禁止



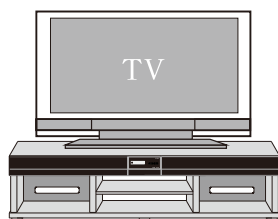
- 火災・感電の原因となることがあります。

他の機器を接続するときは、指定のケーブルをお使いください



指定の  
ケーブル  
を使用

テレビなど



- 接続するときは、必ず電源を切り、他の機器の取扱説明書をよくご覧のうえ、説明に従って接続してください。  
また、指定以外のケーブルを使用すると、故障の原因となります。

移動するときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線など外部の接続ケーブル、転倒防止具をはずし、テレビなど設置している機器を降ろしたことを確認のうえ、行ってください



電源プラグ  
を抜く

- 電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。  
また、落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。

移動するときは、スピーカーネットを取り外し、スピーカー部やサブウーファー部を触らないように移動してください



ネットは  
取り外す

- スピーカーネットを取り付けた状態で移動すると、スピーカーネットが外れ、落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。



注意

- スピーカー部やサブウーファー部に手を掛けないでください。  
スピーカーを破損させるなど故障の原因となることがあります。



転倒防止

据えつけたあと、不意の地震や衝撃等により、この製品の上に載せたテレビなどが倒れてけがをすることがあります。テレビなどの転倒防止策を実施ください



本体に設置する機器の総耐荷重は120kg、天板部60kg、底板部60kg、棚板部10kgです。上記を超える重量物をのせて長期間使用されると、破損してけがの原因になります。

- 天板にはテレビ以外のものは置かないでください。



# 安全上のご注意(つづき)

## リモコンの乾電池についての安全上のご注意

液もれ・破裂・発熱による火傷や失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

### ⚠ 注意

お子様の手に届くところには置かない



禁止

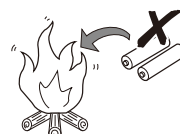


- 乾電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだおそれがあるときは、ただちに医師と相談してください。

乾電池は火や水の中に投入したり加熱・分解・改造・ショートしない  
また、乾電池は充電しない



禁止



- 乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池の液がもれたときは素手で触らない



禁止



- 乾電池の液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

指定以外の乾電池を使わない  
新しい乾電池と古い乾電池または種類の違う乾電池を混ぜて使わない



禁止

- 乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池を使い終わったときや、長時間使わないときは、乾電池を取り出す



指示

- 乾電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池はプラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる



- 間違えると乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因表示どおりとなることがあります。  
に入れる

乾電池を水に濡らさない  
ハンダ付けしない

金属小物(かぎ・装飾品・ネックレス・コイン等)といっしょにポケットやかばんなどに入れない



禁止

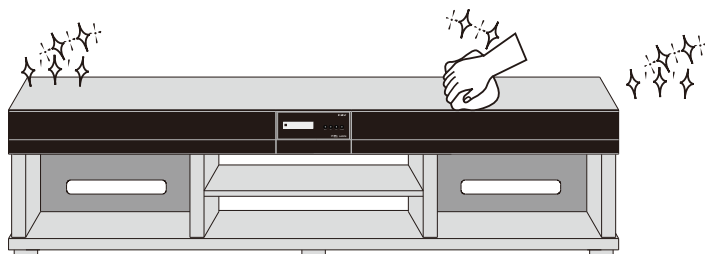


## 使用上のご注意

- 放熱効果を抑えないように、ラックの後側には隙間を確保してください。  
また、背面は接続するケーブル類を破損しないようにスペースを確保して設置を行ってください。
- 使用中は、内部から発生する熱により、本機背面のアンプ部が熱くなります。
- パソコンなどの機器の近くで使用すると、それらの機器や本機に雑音が入ることがあります。そのときは、それらの機器の電源を切るか、本機との距離をできるだけ離してください。
- 本機の近くでラジオ受信機やトランシーバー、防災無線機などの無線機器を使用すると、それらの機器や本機に雑音が入ることがあります。また、誤動作することがあります。そのときは、本機との距離をできるだけ離してください。
- 本機のスピーカーは防磁対応ではありません。本機の天板部分に磁気カード等磁気の影響を受けやすいものを置かないでください。

## お手入れのしかた

- 汚れは柔らかい布（綿、ネル等）で軽くふき取ってください。  
化学雑布（シートタイプのウェット・ドライのものも含め）をご使用になられますと、本体キャビネットの成分が変質したり、ひび割れなどの原因となる場合があります。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤にひたした柔らかい布（綿、ネル等）をよく絞って拭き取り、柔らかい乾いた布で仕上げてください。

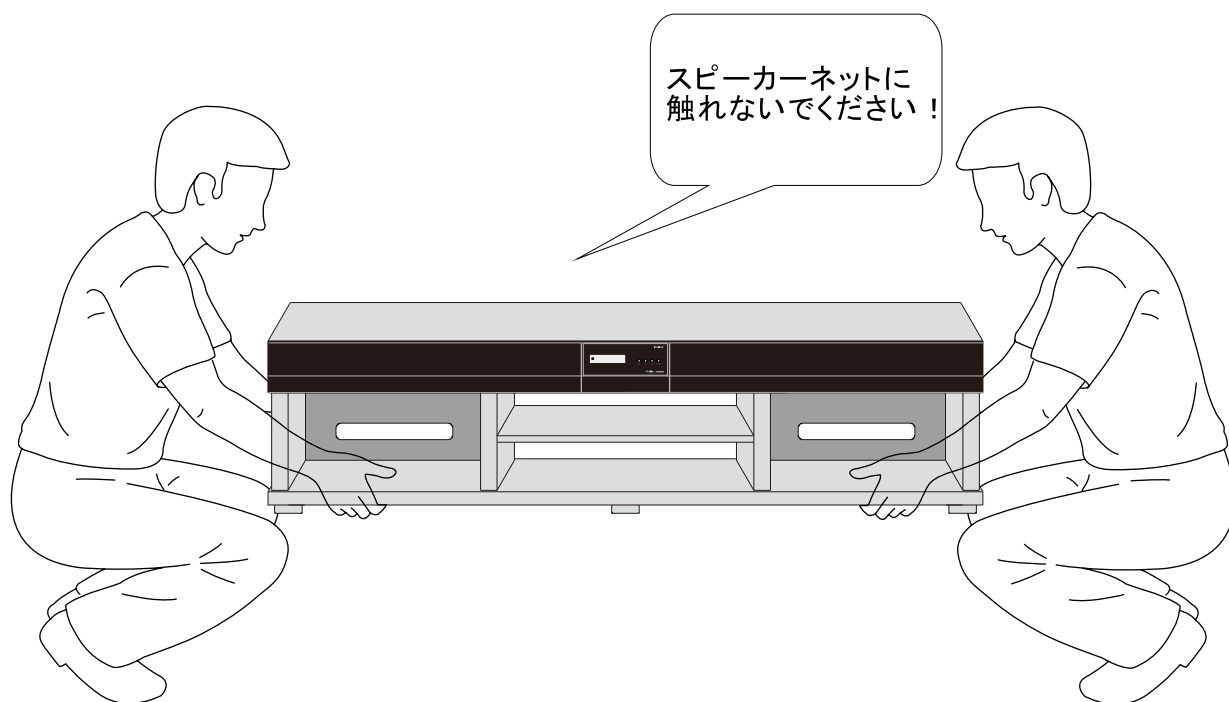


### ⚠ 注意

- ベンジンやシンナー、アルコールなどの化学薬品は使わないでください。  
また、殺虫剤などの揮発性のあるものをかけないでください。  
表面の仕上げをいためたり、変色の原因となることがあります。

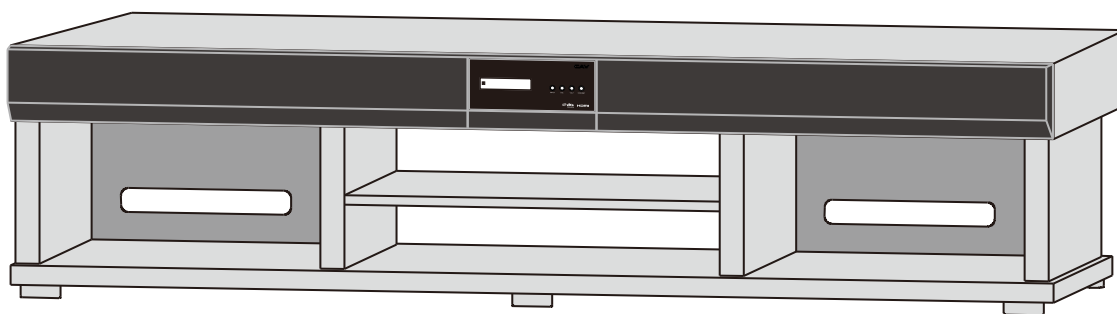
# 搬送や移動のしかた

- 設置、持運ぶ際は2人以上で行ってください。
- 本体を動かす際は床に傷を付けないように必ず下に布などを敷いてから作業を行ってください。
- 搬送や動かす際は前面のスピーカーネット部分を強く押ししたり、サブウーファー部に触れないように底板部分を持ってください。  
(下図を参照し、指定の底板部分を持ってください)。
- 本体の設置や移動の際は、指や足をはさまないように注意してください。
- 本体を動かす際は、テレビやレコーダーなどの機器の転倒、落下を防ぐため、本体から降ろしてから作業を行ってください。



# 組立

## 完成図



組立前にご用意ください。

プラスドライバー

### 組立時・搬送時の注意点

- 組立時はけがをされないように、必ず軍手や手袋などで手を保護してから組立を行ってください。
- 組立時は部品・部材の角で床などを傷付けないように、広いスペースで敷物などの上で組立を行ってください。
- 組立、持ち運びの際は二人以上で行ってください。

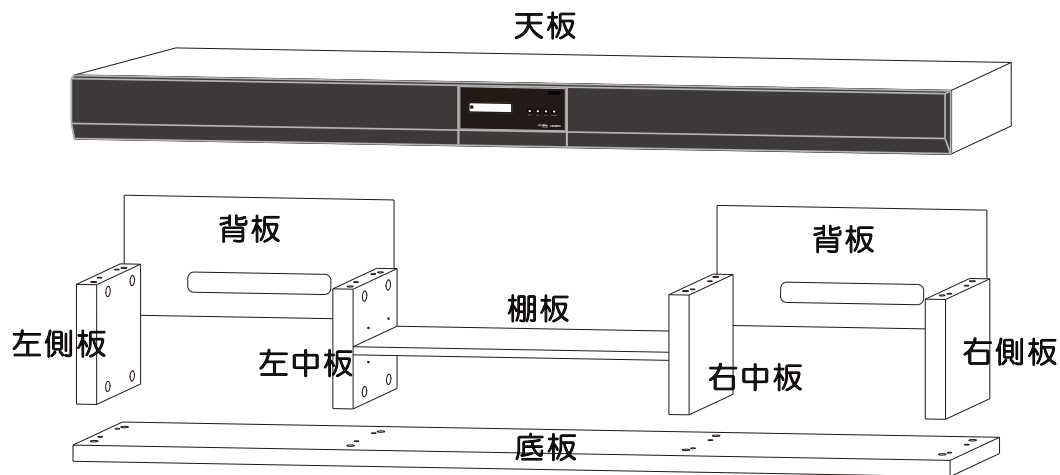
### 使用時の注意点

故障や変形などを防ぐために必ずお守りください。

- |                                |                     |
|--------------------------------|---------------------|
| ■ 高温・高湿の場所に設置しない               | ■ 本体に火気を置かない        |
| ■ 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には設置しない | ■ お手入れの際は、化学薬品を使わない |
| ■ 本体の上に乗らない                    | ■ 分解しない             |
|                                | ■ 耐荷重を超えるものは設置しない   |

## 組立(つづき)

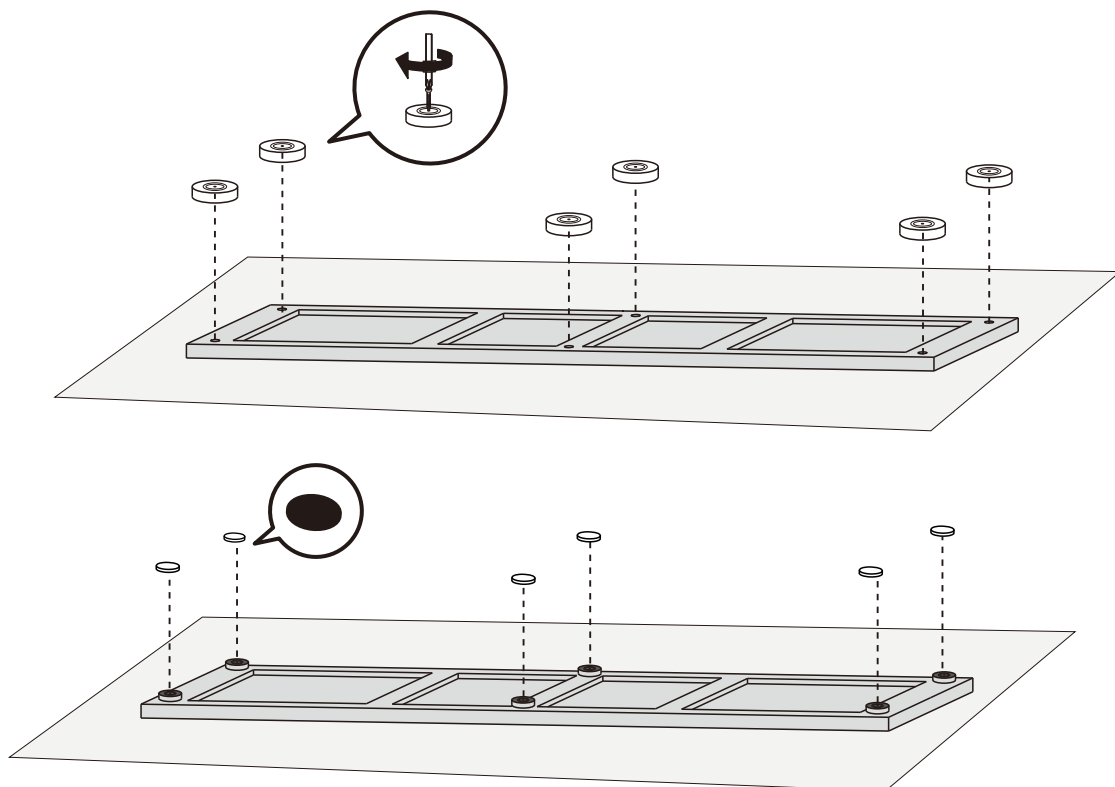
 プラスドライバーをご用意ください。



**1**  脚×6  脚用ねじ(大)×6  滑り止めカバー×6

※床に傷を付けないために、必ず下に布などを敷いてください。

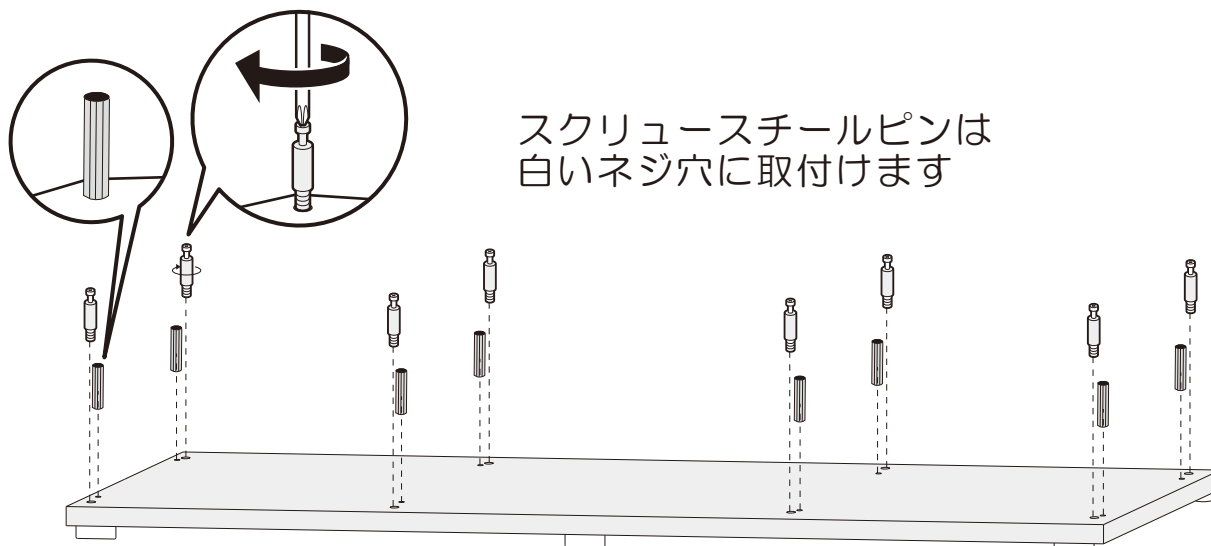
- ねじでしっかり脚を取り付けます。
- 脚を取り付けた後、滑り止めカバーを貼り付けます。



## 組立(つづき)

### 2 スクリュースチールピン×8 ボス×8

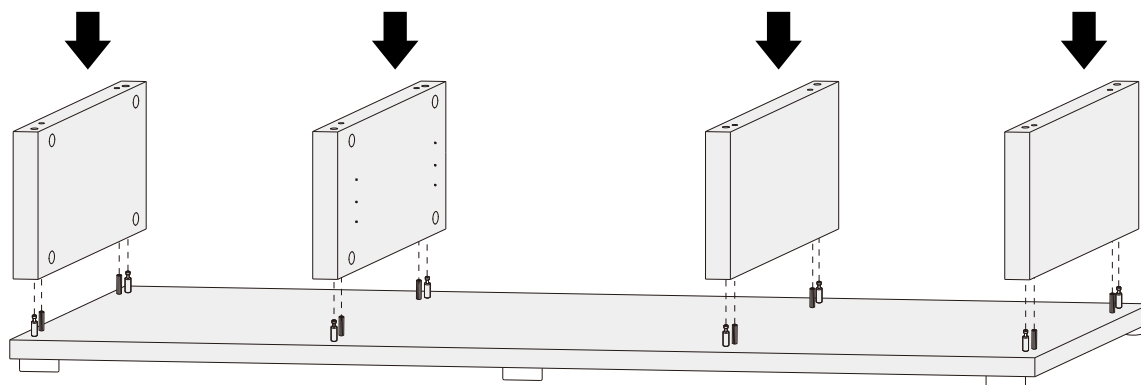
- 底板にスクリュースチールピンとボスを取付けます。



### 3 ピンキャッチ×8 ピンキャッチカバー×8

- 左・右側板と左中・右中板を取付けます。

※底板に貼ってある「前面」のシールと左・右側板と左中・右中板の「前」のシールが同じ方向を向くようにしてください。



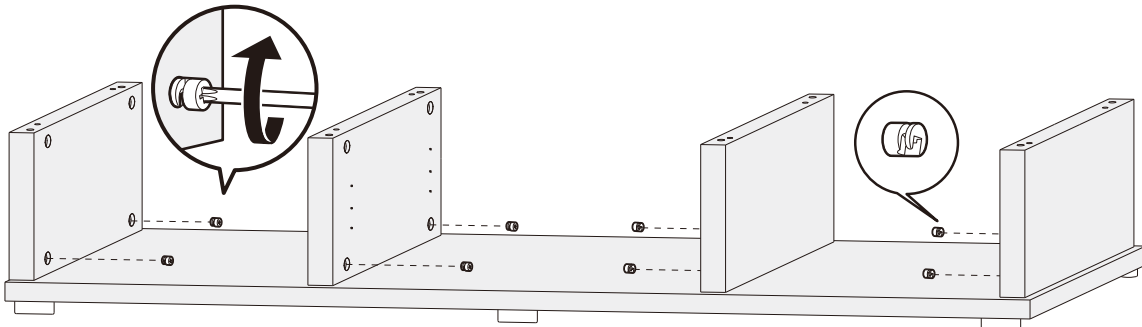
## 組立(つづき)

- ピンキャッチで左・右側板と左中・右中板の下部を固定します。

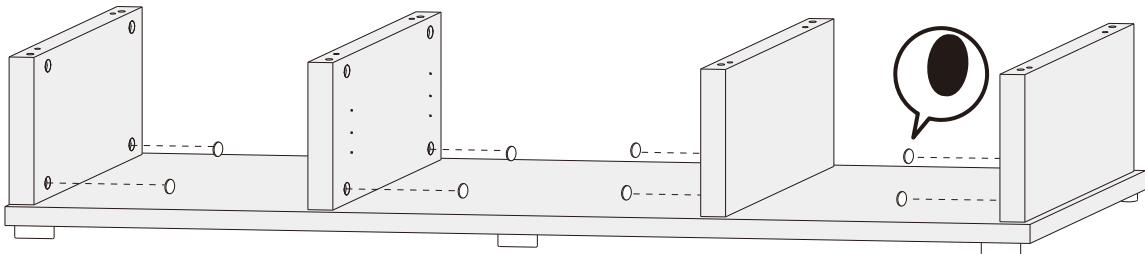
左・右側板と左中・右中板の取付け穴の内部にあるスクリュースチールピンに噛み合うようにドライバーで回しながら向きを確認して奥まで押してから、時計回りに90°程回して固定します。

※回しすぎると、部品が破損します。

※ピンキャッチを一度入れたら、取り外しはできません。



- ピンキャッチの上にピンキャッチカバーを貼ります。

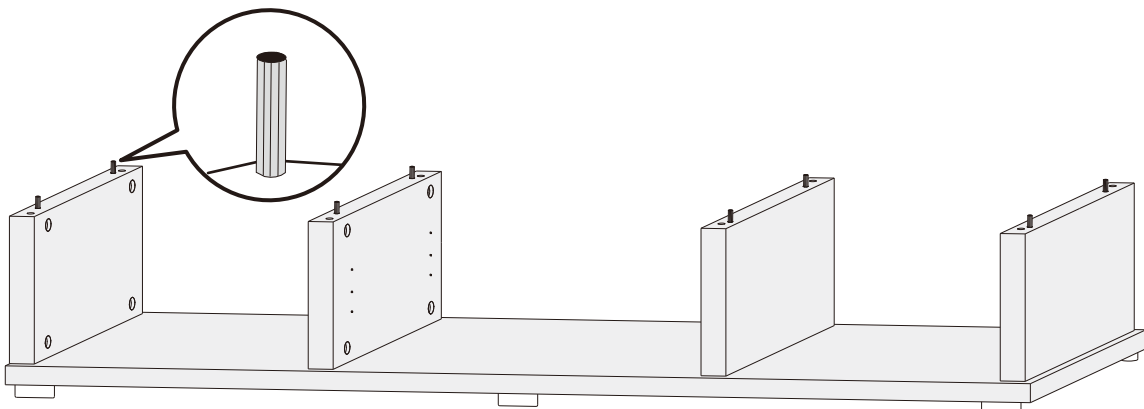


4



ボス×8

- 左・右側板と左中・右中板にボスを取付けます。

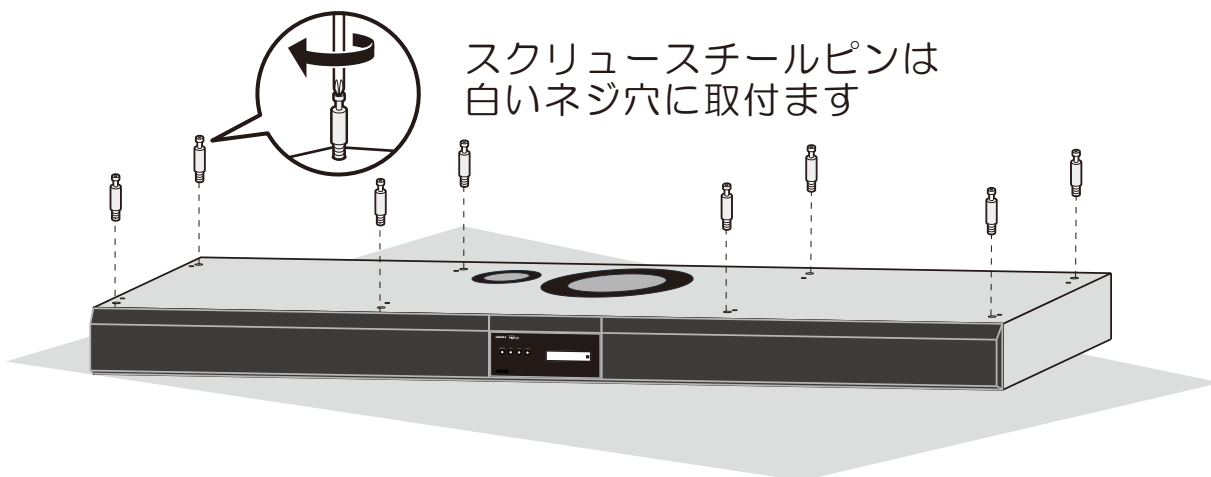




## 組立(つづき)

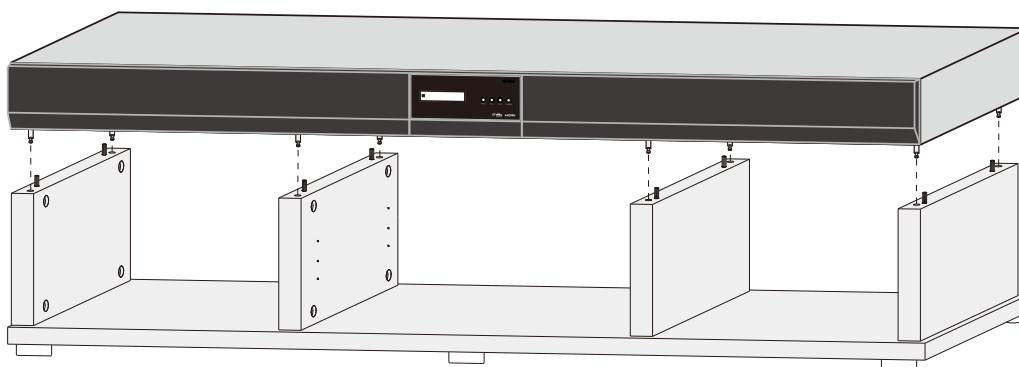
### 5 スクリュースチールピン×8

- 床に傷を付けないために、必ず下に布などを敷いてください。
- 天板にスクリュースチールピンを取付けます。

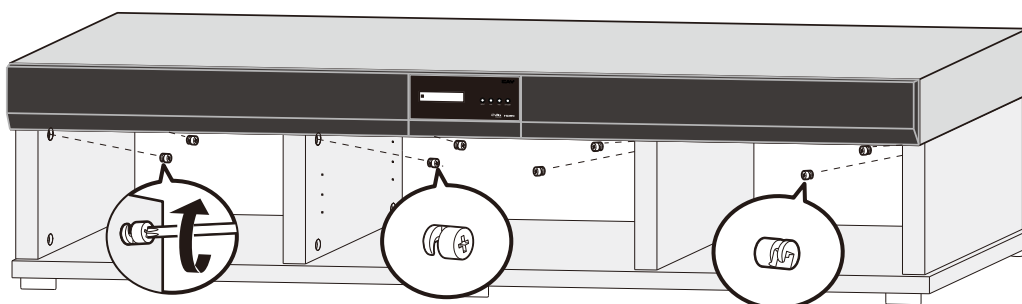


### 6 ピンキャッチ×8 ● ピンキャッチカバー×8

- 天板を取付けます。

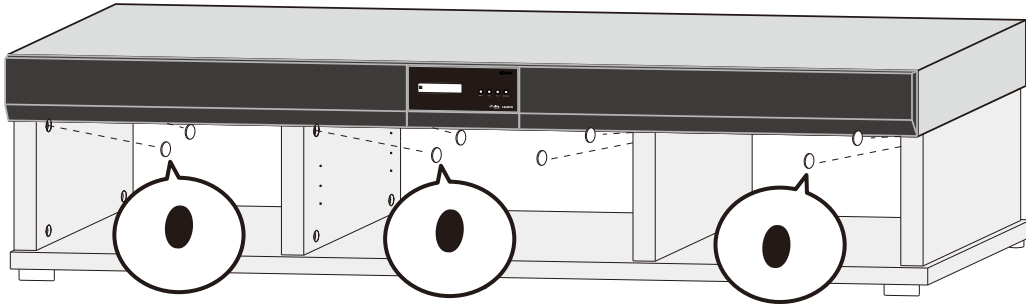


- ピンキャッチで左・右側板と左中・右中板の上部を固定します。  
ピンキャッチの取付け方法は組立3をご参照ください。



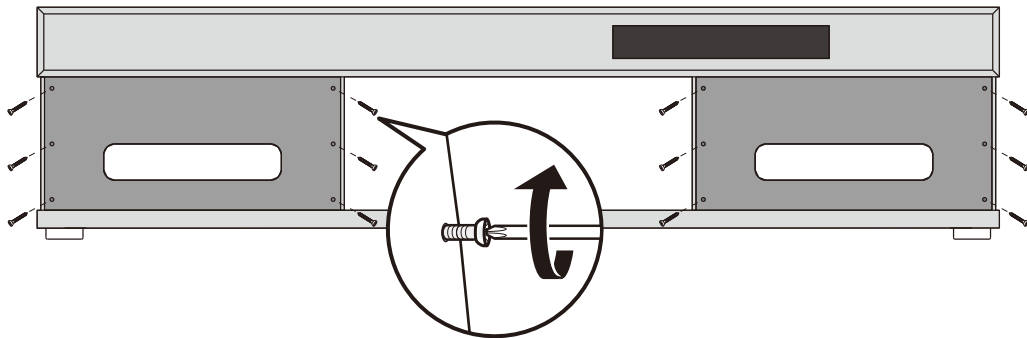
## 組立(つづき)

- ピンキャッチの上にピンキャッチカバーを貼ります。



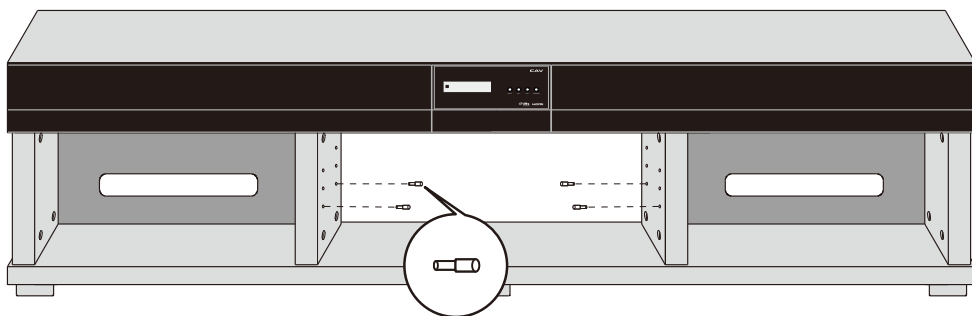
### 7 背板ねじ(小)×12

- 背板をねじで取り付けます。

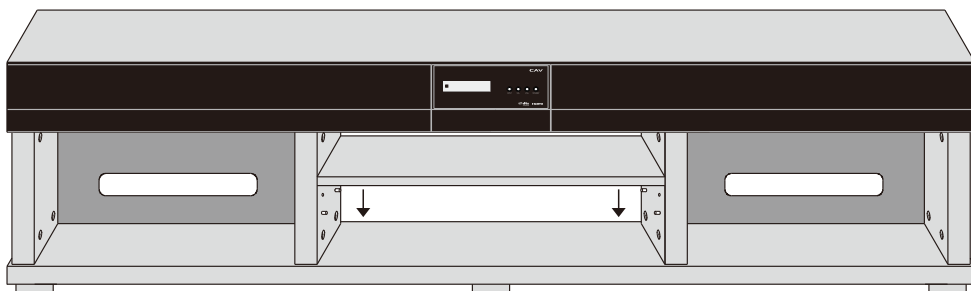


### 8 スチールピン×8

- 左中板と右中板の内側にスチールピンを差し込みます。



- スチールピンの上に棚板をのせます。



# 組立(つづき)

## 転倒防止ワイヤーの取付方法

前面方向へのテレビの転倒を防止するために

### ⚠ 注意

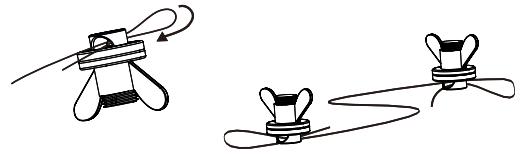
テレビにお子様に登ったり、揺すったり、押したりするとテレビが前面方向に倒れるおそれがあります。下記に従い、転倒防止ワイヤーを取付けてください。

転倒防止ワイヤーの取付方法は、ご使用のテレビの形状により異なります。また、取付けできないものもあります。テレビ側のネジはテレビメーカーにご確認の上、適した方法で転倒防止措置を行ってください。

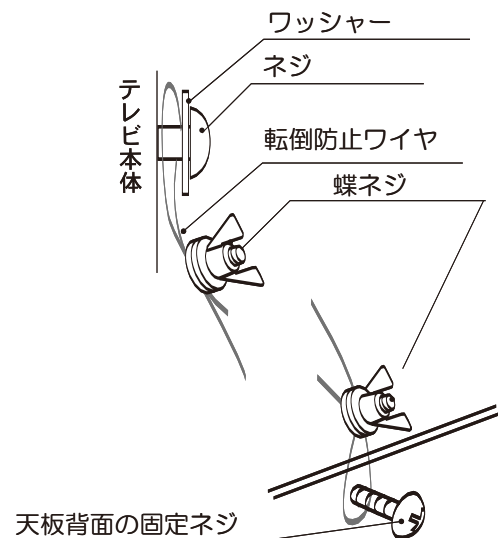
- ① 蝶ネジにワッシャー2枚を取り付けます。



- ② ネジ穴にワイヤーを通し、輪を作ります。ワイヤーの先端を同じネジの穴にもう一度通します。



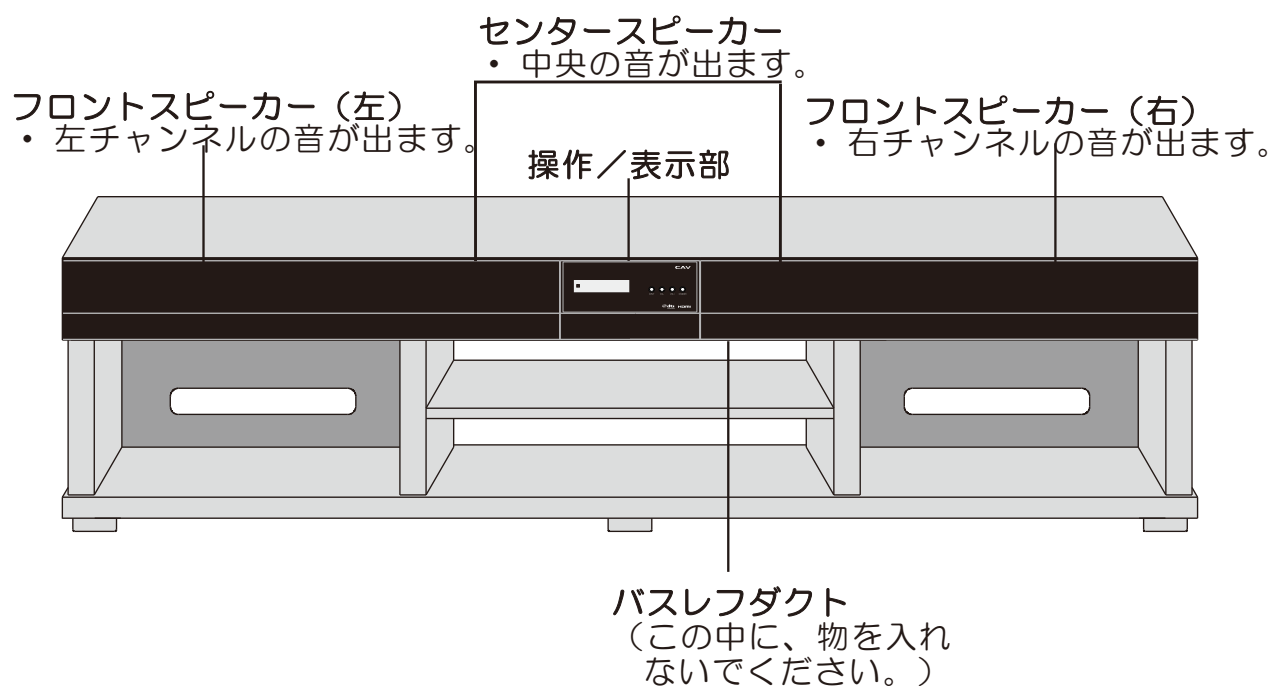
- ③ 天板背面に、ワイヤーを固定するためのネジが取付けられています。輪の直径を縮めるように、ワイヤーの先端を引っ張って緩みを無くした後、蝶ネジを締めてワイヤを固定します。同様なやり方で、もう一本のワイヤーを取り付けてください。天板背面の固定ネジに、ワイヤーの輪の部分引っ掛けます。



- ④ テレビ側のネジ、ワッシャーを取付け、転倒防止ワイヤーをかけます。

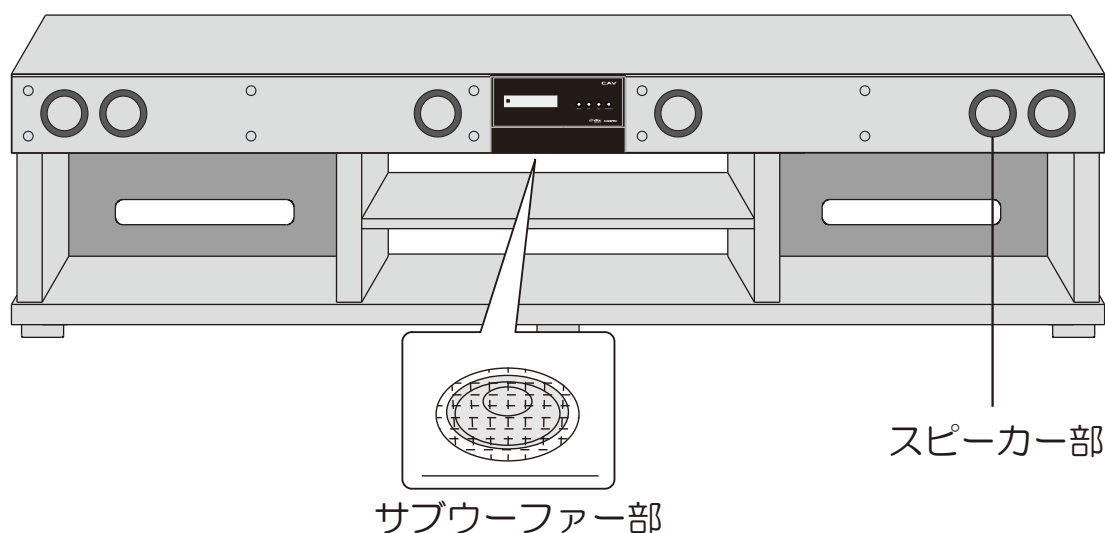
# 各部のなまえとはたらき

## 正面



## 持ち運び時の注意およびスピーカー部の取扱いについて

本機を移動するときや設置するときには、スピーカーネットを取り外し、スピーカー部やサブウーファー部を触らないようにして必ず2人以上で持ち上げて行ってください。



## ⚠ 注意

- 本機を移動するときや設置するときには、スピーカー部やサブウーファー部を強く押ししたり触らないようにしてください。スピーカーの破損の原因となります。
- 本体を引きずらないでください。

# 各部のなまえとはたらき(つづき)

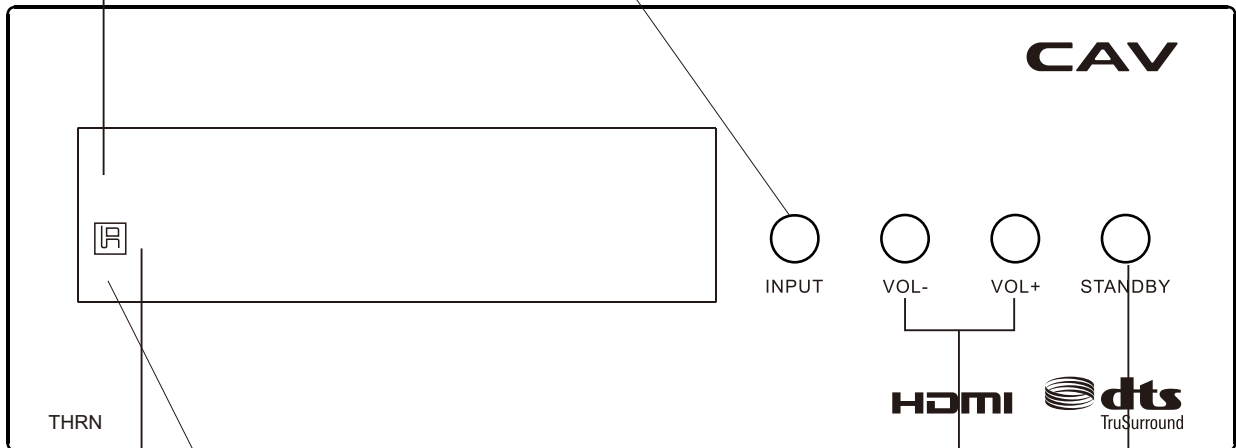
## 操作部

### リモコン受光部

- ・リモコンをここにに向けて操作してください。

### 入力切換ボタン

- ・聞きたい機器の入力を切り換えるときに押します。押すたびに次の順に切り換わります。



### 電源ランプ (STANDBY)

- ・消灯 (動作状態)
- ・赤色点灯 (待機状態)

### 音量 (+/-) ボタン

- ・音量を調整します。

### 電源ボタン

- ・電源を入/切 (待機) します。

## 表示部

入力切替や音量調整、プリセットサウンドモード、サブウーファ-の音量レベル、消音モードなど本機の設定を表示します。

### 入力切換表示

- ・接続された入力にあわせて点灯します。



### プリセットサウンドモード設定の表示

- ・設定にあわせて点灯します。

### dts(サラウンド)設定の表示

- ・dtsサラウンド使用時に点灯します

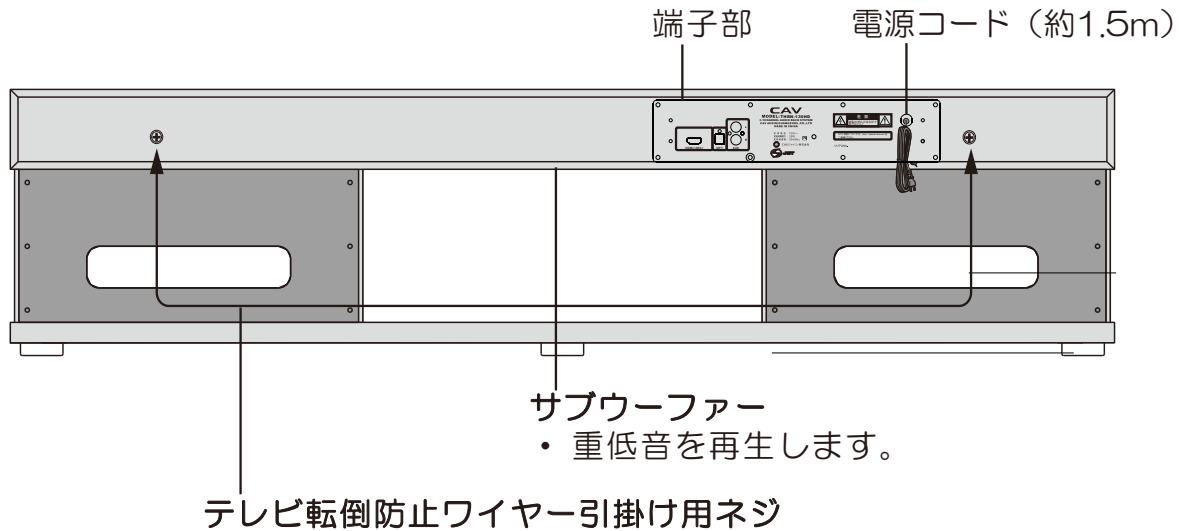
### 表示部

- ・本体の現在の設定されている入力やプリセットサウンドモード、音量、サブウーファ-の音量レベルなど、各設定の内容が表示されます。

- ・HDMIケーブルで接続されている際、テレビ側から音声信号の入力がある時に点灯します。

# 各部のなまえとはたらき(つづき)

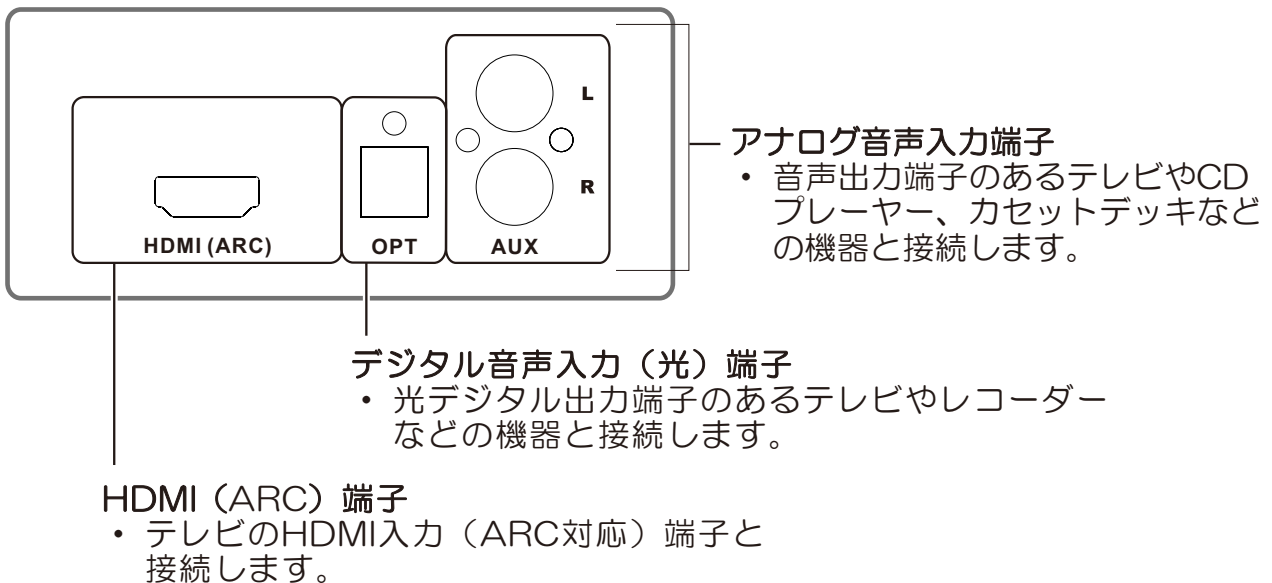
## 背面



### ⚠ 注意

- ・ サブウーファーは破損しやすいので、お取扱いにご注意ください。

## 端子部



# 各部のなまえとはたらき(つづき)

## リモコン

リモコン送信部

電源ボタン

- ・電源の入/切(待機)をします。

入力切換ボタン

- ・接続された入力に切り換えるときに押します。

サラウンドボタン

- ・サラウンド機能の入/切をします。

サウンドモードボタン

- ・サウンドモードを切り換えるときに押します。

音量ボタン

- ・音量を調整するときに押します。

サブウーファー音量ボタン

- ・サブウーファーの音量調整をするときに押します。

センター音量ボタン

- ・センタースピーカーの音量のみ調整するときに押します。

消音ボタン

- ・一時的に音声を消すときに押します。

リセットボタン

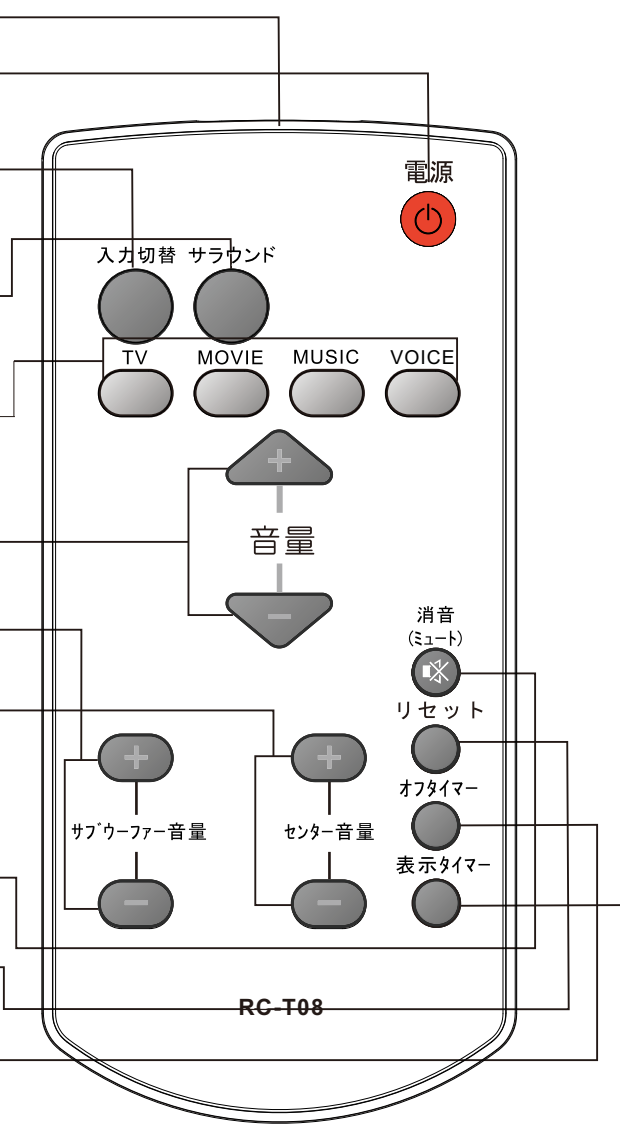
- ・初期設定値にするときに押します。

オフタイマーボタン

- ・オフタイマーの設定時に押します。

表示タイマーボタン

- ・表示タイマーの設定時に押します。



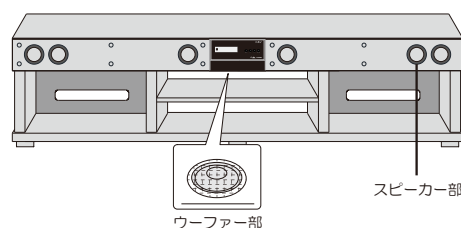


# 本機やテレビなどを設置する

## 設置する前に

### ⚠注意

- 安全のために、手袋を着用してください。
- 本機は非常に重いので、持ち運びなどの作業は必ず2人以上で行ってください。腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。
- 本体を引きずらないでください。  
床などにキズがつく恐れがありますので、十分気をつけてください。また、凹凸や段差のある場所を乗り越さないでください。
- 本機を移動するときや設置するときは、前面のスピーカーネットを取り外してください。スピーカー部やサブウーファー部を強く押ししたり、触らないようにしてください。スピーカーネットやスピーカーの破損の原因となります。
- 誤ってバスレフダクトに物を入れないようにご注意ください。故障の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本機の上にテレビやその他の機器を載せたまま移動しないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



## ①本機を部屋に設置する

- テレビやレコーダーなどを設置したり、接続したりするときの作業スペースを確保のうえ、本機を設置してください。

### ⚠注意

- 指をはさまないように、気をつけて作業を行ってください。
- 本機を部屋のコーナーや壁に寄せて設置する場合には、あらかじめ以下の作業を行ってください。
  1. テレビやレコーダーなどと接続するケーブル類を本機に接続しておいてください。
  2. テレビやレコーダーなどを設置するために必要なケーブル類や転倒防止用のワイヤーなどを配置しておいてください。
- 本機や接続した機器の電源コードやケーブル類を壁などに挟み込まないようにご注意ください。
- 本機は壁から少し離して設置してください。

# 本機やテレビなどを設置する(つづき)

## ②テレビやレコーダーなどを設置する

- テレビは本機の中央に載せてください。  
本体天面耐荷重：約60kg
- 安全のためテレビの転倒防止策の実施をお願いします。
- 本機を設置するときは電源コードやケーブル類を壁にはさみ込まないように壁から少し離して設置してください。

## テレビの転倒防止策の一例

### ⚠注意

- 不意の地震のときや、お子様がテレビや本機に登ったり、ぶらさがったり、揺すったりすると、倒れてけがをする恐れがあります。
- 安心してご使用いただくために、ご使用のテレビの取扱説明書も合わせてご覧のうえ、転倒防止策の実施をお願いします。
- 本体の天板部分に釘やネジを打たないでください。またテレビの転倒防止金具は使用しないでください。転倒防止は、本機とテレビをワイヤーで固定してください。

※この転倒防止策は一例で、テレビを前方向に倒れにくくするものです。  
(後方向には効果がありません。)

# テレビを接続する

## HDMI（ARC）端子のあるテレビと接続する

※接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。

- ご使用の機器の取扱説明書もよくご覧のうえ、接続してください。
- ARC（オーディオリターンチャンネル）対応テレビ音声を聞く場合は、テレビのARC対応のHDMI入力端子と本機のHDMI（ARC）端子を接続してください。

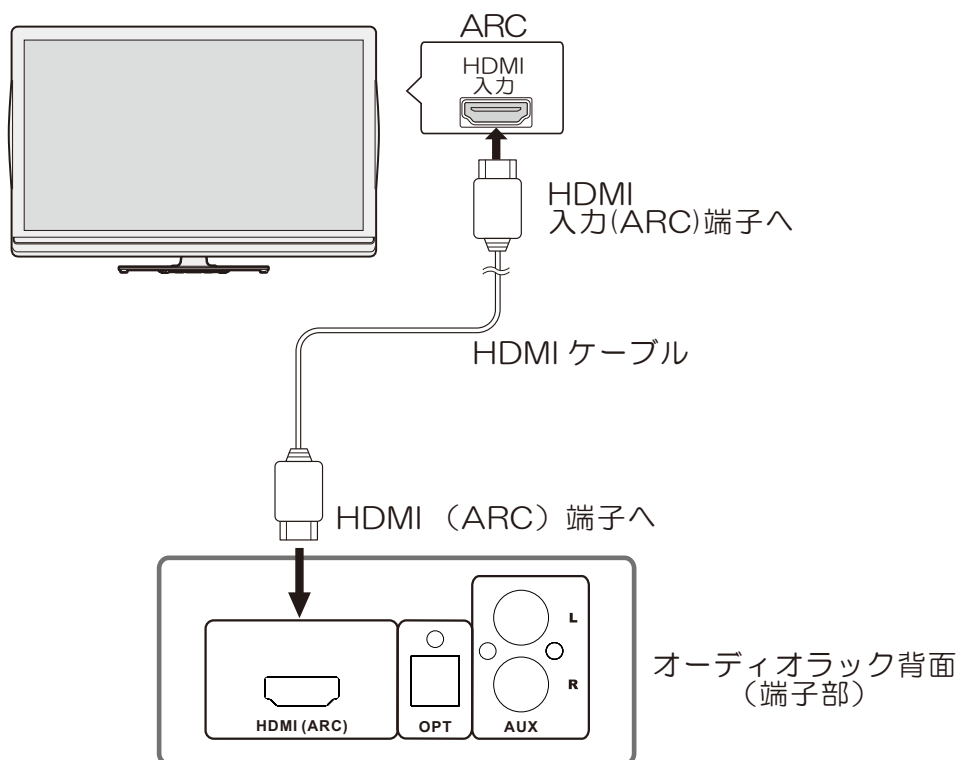
### 使うケーブル

HDMI ケーブル 

- 使用する前に、保護キャップがついている場合は取り外して接続してください。

### HDMIケーブルについて

- HDMIケーブルは、HDMIロゴ表示のあるハイスピードタイプ対応のHDMIケーブルをご使用ください。
- HDMI ケーブルは奥まで差し込み、引っ張らないようにしてください。コネクタが端子から抜けると、本機が正常に動作しなくなります。



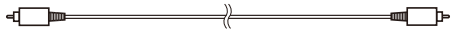
- ※本機で音声を楽しむときは、接続した機器の音声出力を「PCM」に設定してください。  
PCM設定方法は、テレビの取扱説明書をご覧ください。

# テレビを接続する(つづき)

## HDMI (ARC) 端子のないテレビと接続する

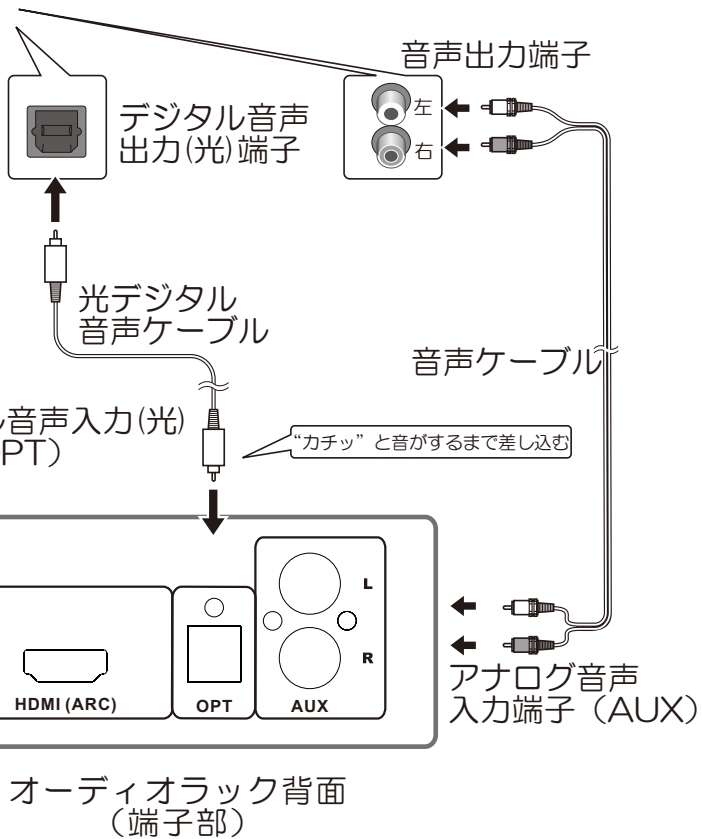
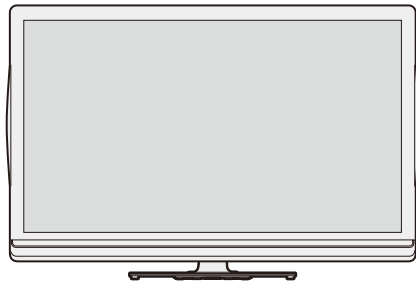
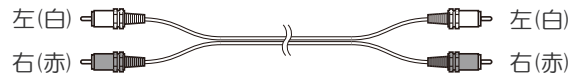
- ※接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。  
• ご使用の機器の取扱説明書もよくご覧のうえ、接続してください。

### 光デジタル音声ケーブル (市販品)



使用する前に、保護キャップがついている場合は取り外して接続してください。

### 音声ケーブル (市販品)



ご使用の機器やお好みに合わせて、どちらかの接続をしてください。

- ※本機で音声を楽しむときは、接続した機器の音声出力を「PCM」に設定してください。  
PCM設定方法は、テレビの取扱説明書をご覧ください。

※光デジタル音声ケーブルは、曲げすぎると破損します。直径60mm以下には曲げないでください。

# 電源を接続する/電源を入れる

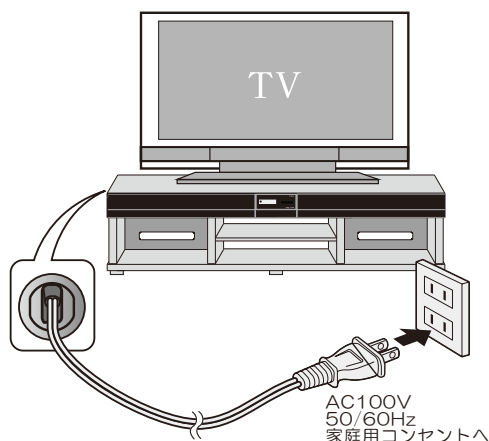
## 電源を接続する

各機器の接続が終わったら、最後に電源プラグを家庭用コンセントに差し込んでください。

STANDBYインジケータが赤色に点灯します。



- それぞれの機器の電源プラグを差し込むときは、テレビの電源プラグを最後に差し込んでください。
- HDMIケーブルの抜き差しや接続方法を変えた場合は、全ての機器の電源を入れた状態でテレビの電源を入れ直してください。



本機は電源コンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにしてください。

### 節電のために

旅行などで長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。  
電源を切っても、多少ですが電力を消費しています。

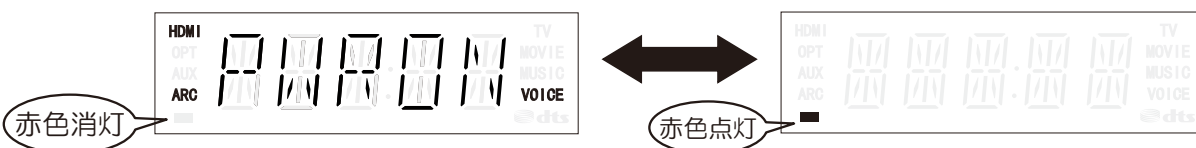
**△注意** 電源プラグを抜くときは、電源を切ってからプラグの部分を持って抜いてください。線を引っ張ると断線の原因となります。

## 電源を入れる

電源を切るには・・・

電源 ○(本体) または 電源 (リモコン) を押す

電源 ○(本体) または 電源 (リモコン) を押す



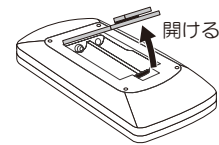
- 電源が入らないときは、電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、またはリモコンに乾電池が正しく入っているか確認してください。
- 本機のリモコン受光部に強い光があたる場所では使用しないでください。誤動作の原因となります。
- 本機のリモコン受光部やリモコンの送信部にシールなどを貼ったり、本体とリモコンの間には障害物などを置かないでください。リモコンの操作ができなくなります。
- 本機のリモコン受光部やリモコンの送信部にほこりがたまると、動作しにくくなることがあります。やわらかい布でふきとってください。
- 電源を切ったとき、電源が切れるまで多少時間がかかります。

- 電源を切ったあとの数秒間は、すぐに電源が入りません。
- 本機の電源が入ってから音声が出るまで、多少の遅れが生じる場合があります。HDMI連動機能により、本機が認識されるまで多少時間がかかるためです。
- HDMI連動機能に対応した接続機器の電源に連動して本機の電源も入/切します。(機器によっては連動しない場合があります。)

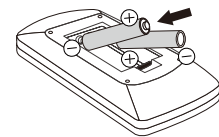
## リモコンに乾電池を入れる/リモコン操作範囲

### リモコンに乾電池を入れる

**1** フタのつまみを押して、矢印の方向に開ける



**2** 単4乾電池を2本入れる  
乾電池の方向に注意して入れてください。  
+、-を間違えると、故障の原因となります。  
※リモコンには充電電池（ニカド電池など）を使用しないでください。充電電池では正しく動作しません。



**3** フタを閉める

#### 必ずお守りください

電池の破損・液もれ防止のために次のことはお守りください。

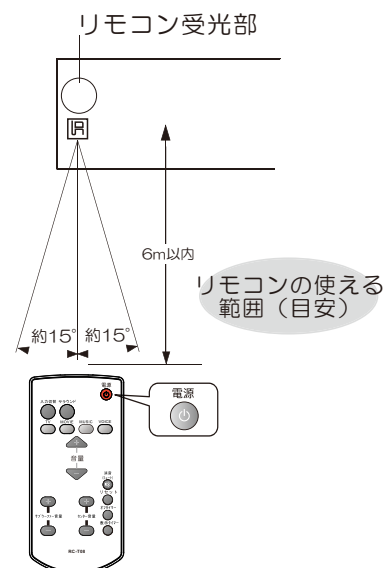
- 長期間未使用の場合、液もれを起こすことがあります。
- 長期間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 電池の“+”、“-”は正しく入れてください。
- 火の中への投入や、ショート、分解、加熱などはしないでください。

### リモコンの操作範囲

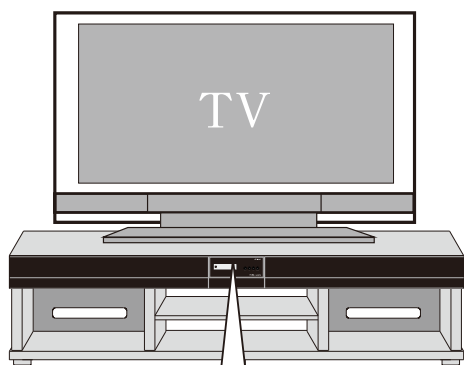
- リモコンの適切な操作の妨げになるので、本体は直射日光や蛍光灯など強い光を発するものの近くを避けて、設置してください。
- リモコン本体と赤外線受光部の間に障害物があると、リモコンが正常に動作しない可能性があります。

#### △注意

- 落としたり、振り回したり、衝撃などを与えないでください。
- 水をかけたり、濡れたものの上に置いたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所の高い場所に置かないでください。
- 付属品の乾電池はお試し用のため、使用期間が短い場合があります。リモコンの動作が効かなくなった場合は、早めに新しい電池と交換してください。
- 使用済みの乾電池は、地方自治体またはお住まいの地域のゴミ分別方法に従って捨ててください。

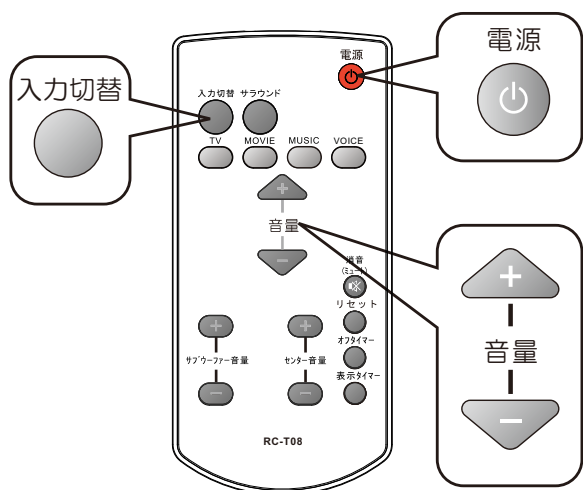


# テレビの音声を聞く



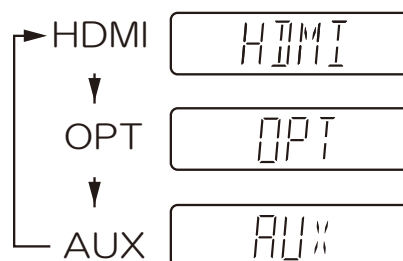
## 電源ランプ(STANDBY)

- ・消灯（動作状態）
- ・赤色点灯（待機状態）



**1** 電源  
 電源ボタンを押して、本機の電源を入れる

入力切替  
**2** 入力ボタンを押して、切替をする  
 「入力切替」ボタンをくり返し押して選ぶ  
 （表示部に表示が出た後、操作してください）  
 入力は次の順に切り換わります。  
 （動作は表示より少し遅れます。）



**3** 音量ボタンを押して、音量を調整する

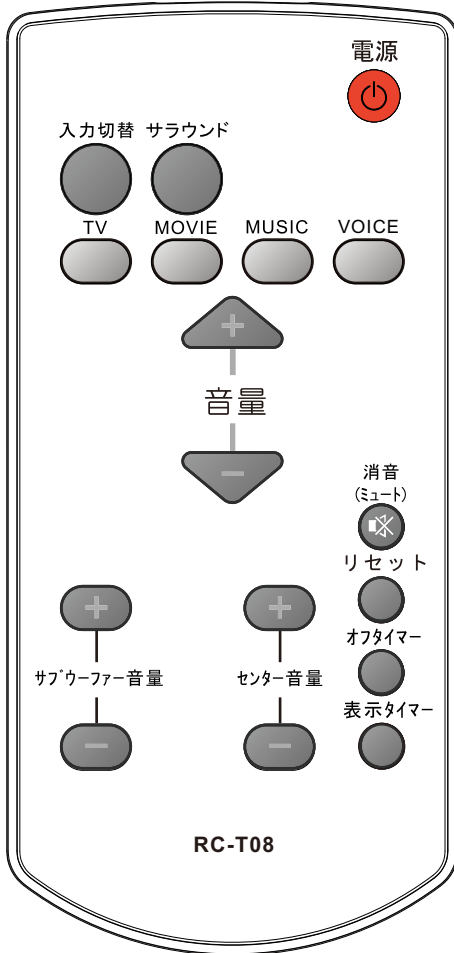
聞き終わったら  
**4** 電源ボタンを押して、電源を切る  
 （音量を下げたあと、電源を切ってください。）

## 音のエチケットについて

- ・楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。  
 ご近所のご迷惑にならないよう、十分気をつけましょう。
- ・夜間にお使いになるときは、ご近所のご迷惑にならないよう、音量を小さくしてお楽しみください。

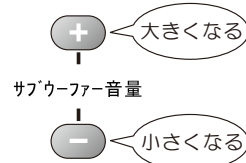


# 音量などを調整する



## サブウーファアの音量レベルを調整するには

サブウーファーから聞こえる音の大きさを調整します。

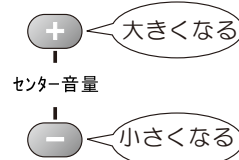


調整範囲 -20~+20

※ サブウーファアの音が大きすぎて歪むときは、サブウーファアの音量を下げてください。

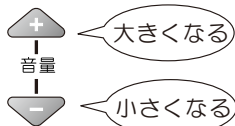
## センタースピーカーの音量レベルを調整するには

センタースピーカーから聞こえる音の大きさを調整します。



調整範囲 -20~+20

## 音量を調整するには



約3秒表示  
調整範囲 0 (小) ~100 (大)

- 音量レベルが表示されます。
- 音声レベルが30以上の状態で、電源を一度切ると音量レベルは30に戻ります。

## 一時的に音声を消すには

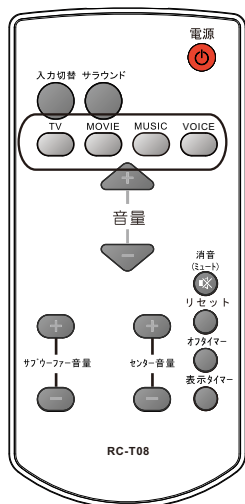
消音 を押す

- もう一度押すと、もとの音量に戻ります。
- 音量ボタンの操作をしても、消音モードは解除されません。
- 電源を切って入れ直すと、消音モードは解除されます。
- 消音中は、音量、消音、電源以外のボタンは働きません。

# いろいろな音質を楽しむ

## プリセットサウンドモードを選んで聞くには

4種類のサウンドモードの中から好みの音場を手がるに選べます。  
聞きたいサウンドモードボタンを押す

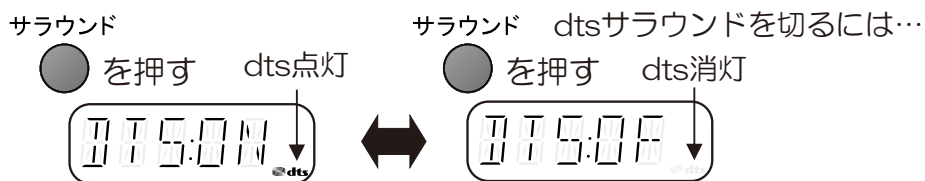


プリセットサウンドモードの種類	表示部のモード表示	音声・音質
通常	TV	TVのノーマルな音声をお楽しみいただけます。
映画	MOVIE	映画の迫力を最大限に引き出します。サラウンド機能と併用することで臨場感溢れる音声をお楽しみいただけます。
音楽	MUSIC	音楽ソースを聴くのに最適な低音から高音に至るまでクリアなサウンドをお楽しみいただけます。
声ハッキリ	VOICE	通常モードより、ドラマのセリフ、ニュースのアナウンサーの声などが聴こえやすくなります。

# dtsサラウンドで音質を楽しむ

## dtsサラウンドで聞く

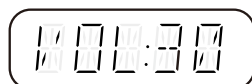
dtsサラウンドを利用すると音声信号のチャンネル数(モノラル、ステレオ、マルチチャンネル)に関わらず立体的な音声を楽しむことができます。



# リセット操作について

リセット ● を押す

リモコンの「リセット」ボタンを押して初期設定値に戻ります。  
本製品の初期設定値は下記の通りです。



- 音量：30
- サウンドモード：TV
- サラウンド：切
- サブウーファー音量：0
- センター音量：0
- オフタイマー：0
- 表示タイマー：切

# オフタイマーを設定する

リモコン  
オフタイマー



- リモコンの「オフタイマー」ボタンを押してオフタイマーを設定します。“0、30、60、90、120”分単位で時間の選択ができ、設定された時間が経つと自動的に電源が「OFF」になり待機状態に入ります。

押すたびに、次の順に切り換わります。

OF → NO → 30 → 60 → 90 → 120



- オフタイマーの未設定時に表示されます。



- オフタイマーの設定時間が「0」分のときに表示されます。



赤色点滅

- オフタイマーの設定時間が表示されます。オフタイマーを設定すると左下のランプが点滅し、電源が「OFF」になるまでのカウントダウンが始まります。左図はオフタイマー「30分」設定時の表示例です。



- オフタイマーを設定して、5秒ほどリモコンのボタン操作（電源以外）をしないと電源が「OFF」になるまでのカウントダウンが始まり、表示部には現在の全体音量レベルが表示されます。



- もう一度「オフタイマー」ボタンを押すと電源が「OFF」になるまでの時間が表示されます。左図は「29分」後に電源が「OFF」になります。

※オーディオラックのオフタイマーを設定しても、TVの電源は切れません。

# 表示タイマーを設定する

■リモコンの「表示タイマー」ボタンを押して表示部の消灯設定をします。



“0、2、5、10、30”分単位で時間の選択ができ、設定された時間が経つと表示部の主な表示が消灯し、「:」が点滅します。消灯モードのときにボタン操作をすると、表示部は一時的に表示されます。

押すたびに、次の順に切り換わります。

DS → ON → 2 → 5 → 10 → 30

※表示部の消灯時間の設定は、(0)秒を設定しない限り解除されません。



●表示部の消灯設定を行ってないときに表示されます。



●表示部の消灯時間が(0)秒のときに表示されます。表示部は消灯されません。



●表示部の消灯設定時間が表示されます。左図は(2)分設定時の表示例になります。



●表示タイマーを設定して、5秒ほどリモコンのボタン操作(電源以外)をしないと表示部が消灯するまでのカウントダウンが始まり、表示部には現在の全体音量レベルが表示されます。



●もう一度「表示タイマー」ボタンを押すと表示部が消灯するまでの時間が表示されます。左図は(1)分後に表示部が消灯されます。



●設定された時間が経って表示部が消灯したときに表示されます。

※表示タイマーとオフタイマーを同時に設定した時は、表示タイマー設定時の「:」の表示が消灯し、左下ランプのみ点滅します。

## ★メモリー機能について

電源「OFF」時に、各機能の設定状態をメモリー保存する機能があります。完全に保存されるまで「2秒」程かかりますので、各操作を行った2秒以内に電源を「OFF」にしないでください。メモリー保存されない場合があります。

# HDMI連動機能について

- テレビのリモコンで操作します。テレビによっては、操作や表示される項目などが異なります。本機と接続したテレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。
- 本機のHDMI連動機能では、HDMIで規格化されているHDMI CEC(Consumer Electronics Control)を利用し、機器間で連動した操作をすることができます。
- 本機とHDMI連動機器（テレビ）をHDMIケーブル（付属または別売品）で接続することができます。

※HDMI連動機能を使うには、接続機器それぞれの設定が必要です。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

## HDMI連動機能への準備

以下の準備を行います。

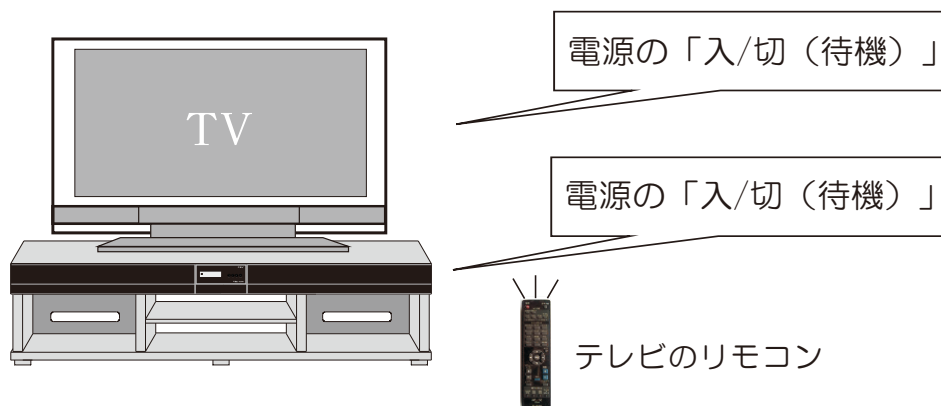
- ①本機とHDMIリンク対応の機器（テレビなど）をHDMIケーブルで接続する。
- ②各機器のHDMI連動設定をする。  
※接続した機器の取扱説明書に従って設定してください。

## HDMI連動機能でできること

テレビによっては操作方法が異なります。本機と接続したテレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

**電源の「入/切（待機）」が連動します。**

- テレビの電源を入/切（待機）にすると自動的に本機の電源も入/切（待機）になります。

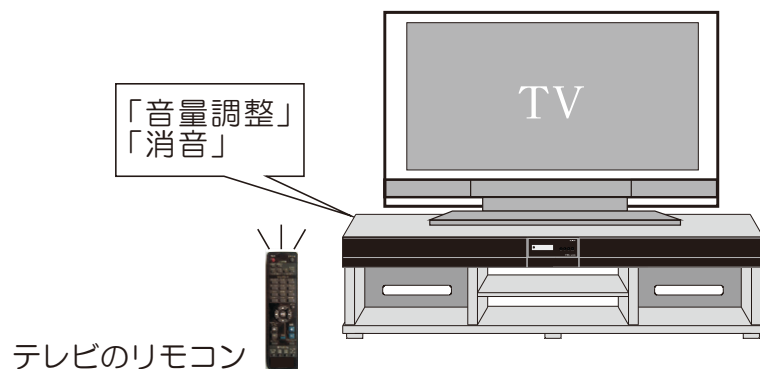


※本機のリモコンで電源を切った場合は、本機の電源しか切れません。

## HDMI連動機能について(つづき)

テレビのリモコンで「音量調整」や「消音」ができます。

●上記の操作を除き、本機の操作を行う場合は、本機の付属リモコンをご使用ください。



※テレビ側のリモコンでは、センタースピーカーとサブウーファースの音量調整はできません。センタースピーカーとサブウーファースの音量調整は、本機のリモコンをご使用ください。

# 「故障かな？」と思ったら

■ 次のような場合は故障でないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

こんなときに		ここをお確かめください
共通	光デジタル音声ケーブルが接続できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先端についている保護キャップを取り外していますか？接続する前に保護キャップがついている場合は取り外してください。</li> <li>・ 端子の方向に対してプラグの方向はありますか。</li> </ul>
	HDMI ケーブルが接続できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 端子の方向に対してプラグの方向はありますか。</li> </ul>
	音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音量が「0」になっていませんか。</li> <li>・ 一時的に音声を消す設定（消音モード）になっていませんか。</li> <li>・ 接続している機器が正しく選択されていますか。（入力切換をまちがえていませんか。）</li> <li>・ 接続している機器の電源は入っていますか。</li> <li>・ 接続している機器が、本機の入力端子に正しく接続されていますか。</li> <li>・ HDMI ケーブルや音声ケーブル類は、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり正しく差し込まれていますか。抜けていませんか。ケーブルを正しくケーブルを正しく接続し直してください。</li> <li>・ ARC 非対応のテレビと接続しているときは、光デジタル音声ケーブルを使いテレビと本機を接続していますか。</li> </ul>
	左右から逆の音が出る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音声入力（アナログ）の L（左）／R（右）が正しく接続されていますか。</li> </ul>
	雑音が出る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンや無線機器などは本機のそばで使用しないでください。</li> </ul>
	ボタンを押しているうちに正常な動作をしなくなった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一度、電源を切り、操作をやり直してください。</li> </ul>
	電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電源プラグがコンセントからはずれていませんか。</li> <li>・ 本機の保護回路が働いていることがあります。電源プラグをコンセントから抜き、5分以上たってから再び差し込んでください。</li> <li>・ 一度&lt;リセット操作&gt;をしてください。</li> </ul>
リモコン	リモコンが動作しない、または正しい動作をしない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乾電池の⊕、⊖ の向きが逆になっていませんか。</li> <li>・ 乾電池が消耗していませんか。</li> <li>・ リモコンの送信部を本機のリモコン受光部に正しく向けていますか。</li> <li>・ リモコン受光部との距離が遠すぎませんか。または、近すぎませんか。</li> <li>・ 本機の前に障害物はありませんか。</li> <li>・ リモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光など）があたっていませんか。</li> <li>・ リモコンの正しいボタンを押していますか。</li> <li>・ 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか。</li> </ul>
	リモコンで電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本機の電源プラグは、コンセントに正しく接続されていますか。</li> <li>・ 乾電池は入っていますか。</li> </ul>



# 「故障かな？」と思ったら (つづき)

こんなときに		ここをお確かめください
H D M I  リ ン ク	HDMIリンク機能が正しく動作しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビのHDMI連動の「連動」が「する」になっていますか。</li> <li>HDMIケーブルは正しく接続されていますか。ケーブルを正しく接続し直してください。</li> <li>HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。抜けかけていませんか。</li> <li>本機の電源プラグはコンセントに正しく差し込まれていますか。電源コードを抜いた状態では、HDMIリンク機能は働きません。</li> </ul>
	テレビのリモコンで本機を操作できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビのリモコン受光部に向けて、リモコンを操作していますか。リモコンの操作範囲内でご使用ください。</li> <li>テレビの音声出力機器設定が「外部機器で聞く」モードになっていますか。</li> <li>HDMIリンク対応の機器を使用していますか。</li> <li>HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。ケーブルを正しく接続し直してください。</li> <li>テレビのリモコンの乾電池が消耗していませんか。</li> </ul>
	テレビの音声が本機から聞こえない/出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>本機のHDMI (ARC)端子とテレビのARC対応HDMI端子とが、HDMIケーブルで正しく接続されていますか。ケーブルを正しく接続し直してください。</li> <li>HDMIケーブルはハイスピードタイプ対応のHDMIケーブルを使用していますか。</li> <li>テレビのHDMI連動設定の「ARC設定」が「自動」モードになっていますか。</li> <li>テレビのデジタル音声設定が「PCM」になっていますか。</li> </ul>
	電源が勝手に切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>HDMIケーブルは正しく接続されていますか。抜けかけていませんか。ケーブルを正しく接続し直してください。</li> <li>HDMIケーブルは、接続している機器側と本機側共に端子の奥までしっかり差し込まれていますか。</li> </ul>
	電源を入れても本機の電源が連動しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビのHDMI連動設定の「電源連動」が「する」になっていますか。</li> </ul>

# よくあるお問い合わせ

	お問い合わせ	回 答
設置	背面を壁に寄せて設置することはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>壁から離して設置してください。経年により、壁紙(クロス)等が汚れたり、背面と周囲の色が違ってしまう場合があります。</li> </ul>
	部屋のコーナーに設置することはできますか？	
接続	CDプレーヤーやカセットデッキなどを接続することはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続できますが、動作保証はできません。</li> </ul>
	アナログ入力はできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続できます。</li> </ul>
	外部スピーカーを接続することはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部スピーカーを接続することはできません。</li> </ul>
	外部アンプを接続して本機のスピーカーから音を出すことはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部アンプを接続することはできません。</li> </ul>
	ヘッドホンを接続することはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッドホンを接続することはできません。</li> </ul>
	HDMI 連動機能非対応テレビでも接続できますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続できます。ただし、HDMI 連動機能による連動動作をすることはできません。接続や設定については、各機器の取扱説明書もご覧ください。</li> </ul>
	HDMI によるコントロール機能に対応した他のオーディオ機器を接続することはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>本機およびテレビのどちらにも接続しないでください。HDMI 連動機能による正常な連動動作ができなくなります。</li> </ul>
その他	テレビから音声を聞くにはどうすればいいですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビの音声出力機器設定を「テレビで聞く」モードに戻してください。電源の「入」や音量調整などのHDMIリンクによる連動動作はしなくなります。</li> </ul>
	重低音を上げたいができませんか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>サブウーファースの音量レベルを調整してください。サブウーファースの音量レベルは -20 ~ +20 の範囲で調整できます。</li> </ul>
	電源を切ったときに、待機ランプを消灯させることはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源コードが繋がっているときは、消灯させることはできません。消すには電源コードを抜いてください。</li> </ul>
	タイマー機能はありますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイマー機能はあります。</li> </ul>
	サブウーファーはついていますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>サブウーファーは本体の天板裏についています。</li> </ul>
	スピーカーは取り外して、レイアウトを変えることはできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーカーは内蔵式ですので、取り外すことはできません。</li> </ul>
	テレビの転倒防止はできますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>本機背面にテレビ転倒防止用ネジが左右2ヶ所に取付けられています。付属の蝶ネジ、ワッシャーおよびワイヤーを使い、テレビ本体とつなぐことができます。この転倒防止策は、テレビを前方向に倒れにくくするものです。後方向に対しては効果がありません。</li> </ul>

# おもな仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

## ● 本体部(アンプ/フロントスピーカー/センタースピーカー/サブウーファー内蔵)

アンプ部	
実用最大出力合計値	160W
実用最大出力	フロント：30W+30W センター：30W サブウーファー：70W
アンプ方式	3.1chデジタルアンプ
音声入力端子	デジタル外部入力：HDMI入力×1、角形光入力×1 アナログ外部入力：ピンジャック(L/R)×1
対応音声フォーマット	PCM
電源	100V AC、50/60Hz
消費電力	25W(待機消費電力：1W以下)
サウンドモード	計4モード：通常、映画、音楽、声ハッキリ
サラウンドモード	DTS Tru Surround
HDMI	CEC対応、ARC対応

スピーカー部	
スピーカー部再生周波数帯域	20~20KHz
フロントスピーカー部	フルレンジ：2.5インチ×4
センタースピーカー部	フルレンジ：2.5インチ×2
サブウーファー部	ウーファー：6.5インチ×1 バスレフ方式

使用環境条件	室温：5~35℃(結露なきこと)
--------	------------------

THR-130HD	
外観寸法(約)	1300(幅)×380(奥行)×313(高)mm(突起物含まず)
収納寸法(約)	左右 350(幅)×330(奥行)×180(高)mm
	中央 470(幅)×330(奥行) 棚高さ： 棚中からの寸法：上部 78(H)、下部 88(H) /調整 ±32mm
耐荷重(約)	天板：60kg、底板：60kg 棚板：10kg
質量(約)	26kg

# 保証とアフターサービス

## 保証書（別途添付）

保証書は別途添付されています。

保証書は、内容をよくお読みになり、大切に保管してください。保証期間はご購入日より1年間です。

天災等の不可抗力や、お客様の取扱上の不注意による破損などは保証しかねます。また、お客様もしくは第三者がこの製品の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合またそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

## 修理を依頼されるときは

### ●保証期間中は

保証書の記載内容により、無償修理（出張修理）をいたします。商品の分解や修理を行わずにお買い上げの販売店か下記のCAVジャパンお客様ご相談窓口にお問い合わせください。修理に際しては保証書をご提示ください。

### ●保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店か下記のCAVジャパンお客様ご相談窓口にお問い合わせください。修理により改善できる場合は、お客様のご要望により有料修理をいたします。

### ■有償修理料金のしくみについて

修理料金は技術料・部品代などで構成されています。	
技術料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張費	出張修理を行った場合の出張に要する代金です。

## アフターサービスについてご不明の場合

アフターサービスについてご不明の場合、修理に関するご相談ならびに、お取扱い・お手入れに関するご不明な点はお買い上げの販売店かCAVジャパンお客様ご相談窓口にご相談ください。

### お客様相談室や保証書におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

- お客様相談室でお受けした個人情報は、修理やご相談への回答などに利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該商品に関するCAVジャパン株式会社および関係会社に、お客様の個人情報を提供する場合があります。その場合も当社と同等の個人情報保護を行わせてまいりますので、ご了承ください。
- 保証書にご記入いただいたお客様の住所・氏名などの個人情報は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動に利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

## CAVジャパンお客様ご相談窓口

固定電話からはフリーダイヤル(無料)



0120-232-765

平日 10:00-17:00

(土日・祝日・弊社休日を除く)

携帯電話・PHS・一部のIP電話からは(有料)

TEL 03-5850-6817

FAX 03-5850-6810

〒116-0014

東京都荒川区東日暮里5-51-11 静屋ビル10階